

# 茨城県立竹園高等学校

## 問いが未来をひらく。竹園高校の「探Q」 ～竹のように地域に根ざし、世界へ伸びる学び～

竹園高校の探Qは、既成の探究プログラムを導入するだけの学びではありません。これまで18年にわたって独自積み重ねてきた文化を土台に、筑波大学、東京大学、研究機関、起業家、国内外の高校とつながりながら、生徒一人ひとりの問いを社会へひらいていきます。

### 1 年生

#### 萌芽 → 根張

探Qの手法を学び、世界や社会と出会いながら、自分の問いを育てる。

### 2 年生

#### 成長 → 挺立

普通科・国際科それぞれの探Qで、問いを研究・社会・他者へひらき、成果を発信する。

### 3 年生

#### 竹実

進路探Qを通して、これまでの学びを進路や生き方につなぎ、自己の問いをさらに深める。

#### UNIVERSITY

#### 筑波大学・東京大学 など

##### 1 年生

- ・東京大学探Qツアー  
宇野健司先生のゼミ体験・  
キャンパスツアー  
(卒業生との交流)など

##### 2 年生国際科

- ・筑波大学研究室訪問  
(大学の先生に中間発表)  
・大学院生による探Q指導。

#### GLOBAL

#### 大田東新科学高校 (韓国)

オンライン交流と相互訪問を重ね、共同探究と国際的な視点を育む。つくば国際会議場での探Q発表会にも参加する。

#### フィリピン訪問

CFF Japanとの連携によるフィリピン研修。子どもの家訪問

#### OPEN

#### 県外高校・地域・企業

- ・横浜創英、かえつ有明、芝浦工大柏を発表会に招待。

(令和7年度実績)

- ・しびつくばわー堀下氏との連携。
- ・EO IBARAKIとの連携。起業家講演会と起業家からの問いにチャレンジ。起業家に対してプレゼンを行うなど、多様な他者と出会う。



University of Tokyo TANQ Tour  
東大探Q+ツアー



PHILIPPINES  
スタディーツアー



Korea Exchange  
大田東新科学高校との探究交流



Entrepreneur Talk  
起業家講演会



TAKEZONOKOKO

活動の様子は、竹園高校公式Instagramをご覧ください。

探Q、発表会、国際交流、大学・研究機関訪問、学校の日常を発信中。

@takezonokoko

# 1年生 探Q基礎

世界を知る。自分を知る。  
そして、問いが生まれる。



Entrepreneur Talk  
起業家講演会



Team Building  
チームビルディング

1年生の「探Q基礎」では、まず探究の基本的な手法を学ぶ「萌芽」からスタートし、自ら問いを立て、情報を集め、対話しながら問いを深めていく「根張」へと進みます。

その土台となるのが、役職や立場にかかわらず一人ひとりが主体的に行動する「権限によらないリーダーシップ」の考え方です。目標共有・率先垂範・同僚支援を意識したリーダーシップ教育やチームビルディングを通して、他者と協働して学ぶ力を育てます。さらに、今年度の新規事業として世界を知り視野を広げる「せかたん」、教科「公共」と探Qをつなぐ「Public Quest」を組み込み、社会や世界との出会いから、生徒一人ひとりの新たな問いが生まれる学びを展開します。

## LEADERSHIP EDUCATION

### リーダーシップ教育

権限や役職に関係なく、一人ひとりが目標共有・率先垂範・同僚支援を意識し、自ら行動する力を育む。

## TEAM BUILDING

### チームビルディング

ペーパータワー作成などのチームビルディングを通して、協働して課題に取り組み、互いの力を生かす姿勢を育む。

## SEKATAN

### せかたん | 世界を知る

社会・文化・価値観・グローバル課題に触れ、「知らなかった世界」から自分の問いを立ち上げる。

## PUBLIC QUEST

### 公共×探Q

教科「公共」で扱う社会の課題を、探Qの手法で自分ごと化し、調査・対話・提案へつなげる。

## TOKYO UNIVERSITY

### 東京大学探Qツアー

宇野健司先生のゼミ体験などを通して、大学の学び方・問いの深め方に直接出会う。竹園高校の卒業生との交流も。

## EO IBARAKI

### 起業家と考える

講演会だけでは終わらない。地域の起業家・経営者からリアルな問いを受け取り、社会とつながる探Qへ踏み出す。生徒のプレゼンテーションをきっかけに、優れた提案が実際の社会実装へとつながった例もある。

知るほど、問いは育っていく。

## 2年生 国際科探Q

### 18年の歴史を受け継ぐ、国際科探Q

竹園高校の探Qは、今年で18年目を迎えます。その歩みを長く支えてきた国際科では、少人数ゼミ形式で、一人ひとりの問いにじっくり向き合います。

本校教員と筑波大学大学院生を中心とした探Q指導員との対話を重ねながら、問いを研究へと深め、大学・研究機関、そして国内外との交流へと学びを広げていきます。

英語での発表、筑波大学研究室訪問(大学の先生に中間発表を行う)、韓国の高校生との協働探究など、国際科ならではの高度な探究活動を展開します。

#### TSUKUBA

##### 筑波大学連携

大学院生による探Q指導、研究室訪問による中間発表を通して、専門的な視点に触れる。

#### KOREA

##### 大田東新科学高校

オンライン交流と相互訪問を重ね、共同探究を通して問いを国際的に捉え直す。

#### PRESENT

##### 英語/日本語発表・質疑

つくば国際会議場での発表やポスターセッションで、他者からの問いを受ける。その他、オンライン・オフラインによる交流を行う。



University of Tsukuba Lab Visit  
筑波大学研究室訪問



Korea Exchange  
韓国



MALAYSIA / SINGAPORE  
スタディーツアー



TANQ Presentation  
探Q発表会

#### 探Qテーマ例

韓国産・日本産抹茶の抗酸化成分の比較 / 複数の藻類を混ぜ合わせたバイオ燃料の開発 / ライドシェアの問題点と解決策 など

18年、受け継いできた探Q。  
問いを深め、その先に世界がひらく。

# 2年生 普通科探Q

## 問いを、自分の世界から社会へ。

普通科探Qでは、生徒一人ひとりの興味・関心から問いを立て、似たテーマを持つ仲間とゆるやかにつながりながら、個人を中心とした探Qを深めていきます。卒業生や地域の方からの講話などを通して、社会や大学で学ぶ先輩の経験や視点にも触れ、自分の問いを学校の外へひらいていきます。

近年は、大学や研究機関、地域、企業などへ自ら働きかけ、フィールドワークや専門家への相談に踏み出す生徒も少しずつ増えてきました。今年度からは、卒業生・保護者・地域の方々などの力をつなぐ探究データベースの本格的運用もはじまり、生徒の「知りたい」「やってみたい」と社会をつなぐ仕組みづくりを進めています。

研究機関・地域・企業・卒業生など、学校の外の人や場と出会い、問いを実社会へ接続します。

## 探Qサイクル

- 1 問いを立てる 個人の関心から出発し、社会や学問との接点を探す。
- 2 調べる・分析する 先行研究、データ、フィールドワークから根拠を集める。
- 3 試す・対話する 仮説を検証し、他者からの問いによって考えを磨く。
- 4 新たな問いへ 発表や振り返りを通して、学びを次の問いにつなぐ。



TanQ  
探Q



PHILIPPINES  
施設見学



Okinawa  
スタディーツアー（沖縄）



Lecture by a senior  
卒業生講話

## 社会実装へ

地域課題、企業課題、研究テーマと接続し、探Qをキャリア形成にもつなげる。

## 協働探Qも可能

個人探究を基本にしつつ、組み合わせることで新しい価値が生まれる場合は協働へ。

人に会う。現場を見る。問いが動き出す。

## 世界に出て、 自分の「当たり前」を問い直す。

海外へ行くことや英語を使うことだけが目的ではありません。異なる文化や価値観の中に身を置き、自分たちの「当たり前」を問い直す。その気づきが、新しい問いとなり、生徒自身の世界を広げていきます。



**KOREA**  
大田東新科学高校



**PHILIPPINES**  
スタディーツアー



**MALAYSIA / SINGAPORE**  
スタディーツアー



**SELF-DIRECTED**  
自ら海外へ

### VOICE 01

01

#### 韓国・大田東新科学高校 派遣生徒

現地で同世代の高校生と授業や探Qについて話すことで、オンラインでは分からなかった考え方や文化の違いに気づきました。違いを知ることで、自分の「当たり前」を見つめ直すきっかけになりました。

### VOICE 02

02

#### フィリピン研修 参加生徒(1年生希望者)

現地で人と関わる中で、「幸せ」や「平和」を自分だけの価値観で考えていたことに気づきました。自分の目で見て感じることで、同じものでも見え方が変わることを実感しました。

### VOICE 03

03

#### マレーシア・シンガポールスタディーツアー(2年生国際科)

大学生との交流やプレゼン、海外で働く方のお話を通して、日本にいただけでは見えなかった日本の良さや課題に気づきました。自分の進路や学び方を考える機会にもなりました。

### VOICE 04

04

#### 自ら海外での学びに挑戦した生徒

探究留学では、日常を離れて自分のやりたいことに集中し、欧州でのレースや現地での交流を通して、実践的なコミュニケーション力を高めることができました。

(トビタテ留学JAPANの利用)

### TEACHER'S VOICE

竹園高校の生徒たちには、自分で考え、学びを進める力があります。だからこそ、その力を学校の中だけで完結させたくない。異なる文化や価値観に出会い、自分の「当たり前」が揺さぶられたとき、生徒の視野が広がり、問いも変わっていきます。

**Different cultures. New perspectives. New questions.**

世界を知りに行ったはずが、問い直したのは自分だった。

## 学校の外へ。 問いを、もっと深く。

自分の問いを外にひらき、伝え、問い返され、異なる考え方に会うことで、探Qはもう一度動き始めます。発表や交流は、成果を披露するためだけではなく、次の問いを見つけるための大切なプロセスです。



MAIN PHOTO  
つくば国際会議場・探Q発表会



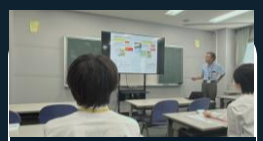
LAB  
筑波大学研究室



EXCHANGE  
県外高校交流



OKINAWA  
スタディーツアー



FIELD  
専門家との対話

### VOICE 01

01

#### 英語による探Q成果発表

英語で話すこと以上に、探Qを相手にどう伝えるかを考えることが難しかったです。しかし、質問を受けらる中で、伝えることが研究を深めることにつながると感じました。

### VOICE 02

02

#### 日本語による探Q成果発表

相手から問いを返されることで、まだ考え切れていない部分に気付きました。発表は、次の問いを見つける場でもあると思いました。相手が一生懸命聞いてくれている姿を見てうれしかったです。

### VOICE 03

03

#### 県外高校との探究交流

同じ高校生でも、学校によって探究の進め方や考え方は違う。その違いに出会えたことが、今後の自分の活動へのモチベーションにつながりました。

### VOICE 04

04

#### 筑波大学研究室訪問(2年生国際科)

大学の研究室を訪れ、先生や大学院生の方と話すことで、高校で進めている探究と大学での研究がつながっていることを実感しました。

### VOICE 05

05

#### 沖縄スタディーツアー(2年生普通科)

実際にその場所に立ち、地域の方の話を聞くことで、教室で学んでいた歴史や社会の課題の感じ方が変わりました。

### TEACHER'S VOICE

生徒が一生懸命研究したものを、学校の中だけで終わらせるのはもったいない。外へひらけば、違う問いや考え方が返ってくる。そこで自信を持つこともあれば、考えが揺さぶられることもある。その揺らぎから、また次の問いが生まれます。

違う視点に出会うたび、問いは深くなる。

## 18年目の探Qへ

# 問い続けることが日常になる。

発表会は完成ではなく、途中の記録。探Qに、終わりはない。

### TANQ FORUM

#### つくば国際会議場へ

18年積み重ねてきた探Qを、学校の外へ。国内外の高校、大学・研究者、地域とつながる場へ広がっています。

### EDUCATOR VISITS

#### 視察・実践交流

探Qに関心を持つ学校・教育関係者の視察を受け入れ、実践や課題を共有。学びは学校を越えて広がっています。

### NEXT

#### 次の問いへ

成果で終わらず、対話や出会いから問いを更新する。探Qはまた次の学びへと動き始めます。



KOREA  
大田東新科学高校



RESEARCH SHOWCASE  
探Q発表会



EDUCATIONAL VISIT  
視察受け入れ(NITS他多数の学校)



TAN-Q CAFÉ  
探Qカフェ(卒業生との探Q交流)

## 18年目の探Qも、完成ではありません。

探Qという学びは、18年という時間の中で、少しずつ積み重ねられてきました。問いを持ち、迷い、考え、誰かと話し、また新しい問いに出会う。

一つの答えにたどり着くことよりも、その過程で考えを深め、自分の見方を更新していくことを大切にしてきました。

筑波大学をはじめとする大学・研究機関、地域、企業、国内外の高校とのつながりも、そうした時間の中で育ってきたものです。

生徒たちは学校の外へ出て、人と出会い、問いを投げかけ、時には問い返されながら、自分の探Qを少しずつ深めていきます。

18年間の実践の中で受け継がれてきたのは、決まった答えではありません。問い続ける姿勢と、学びを外へひらいていく文化です。

問い続けることが日常になる。  
探Q——それは、終わりなき旅。

探究・教育改革推進部長 戸井田 翔太郎

SUPPORTED BY

三菱みらい育成財団 / 県立高校等チャレンジ・プロジェクト